



精度の起源

ジュウ渓谷における時計製造の始まり

価値観の中核をなす精度の追求

主要な年:

- 1558年：ピエール・ルクルト、スイスへ到着
- 1612年：ル・サンティエ村の誕生
- 1684年：鍛冶屋の卓越性
- 1749年：時計製造の認知

太古の昔、天空の太陽や月の動き、季節の変化を観察して時間の概念を定めたときから、人類が時間をより正確に定義し測定することを追求することにより、何千年にもわたり、数々の装置が発明されてきました。古代エジプト、バビロン、ギリシャの日時計や水時計、中国の香時計や中世ヨーロッパの砂時計、イスラムの水時計など、いずれもその時代に正確に計時を行った代表的な装置です。

14世紀半ばに世界初の機械式時計が発明されると、精度を追求するペースが加速しました。この新しい機械はより正確に時間を計測することができました。そして、時計製造技術がより高度になり、持ち運びできる時計の開発への扉を開きました。その時計は、部品の成形やムーブメントの構造、組み付けが小型化され、それまで以上に高い精度が要求されました。

精度に徹底的にこだわった時計技師であり、発明家であったアントワーヌ・ルクルトが1833年に創業して以来、精度の追求はジャガー・ルクルトの信条の中核を担っています。彼の時計製造の工房は、優れた品質ですぐに注目を集め、ルクルト社（ルクルト & Cie）は本格的なマニュファクチュールへ成長し、業界全体の基準を打ち立てました。1800年代半ば以降には、スイスの大手ウォッチメーカーの多くが自社のタイムピースに使用するためにメゾンのキャリバーを求めました。そして、メゾンは「ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー」として知られるようになりました。

しかし、ジャガー・ルクルトの精度の追求のルーツは、はるか昔まで遡ります。それは創業から250年以上前に始まり、ジュウ渓谷そのものの歴史と深く結び付いています。



亡命へ - 1558 年

1517 年に始まった宗教改革がドイツやスイスからフランスへ広がり、この運動が拡大するにつれて、マイノリティーであったユグノー（フランスのプロテスタント）に対する宗教迫害がますます厳しくなりました。1558 年、迫害から逃れてジュネーブへ向かった難民の中にピエール・ルクルトがいました。ジュネーブでは、神学者のジャン・カルヴァンが神政政治（セオクラシー）を行っていました。ここでルクルトは、誰もが望むジュネーブの「市民権」を得ました。

当時、ジュネーブの商人や金融業者は、ジュウ溪谷の天然資源である鉄や木材の開発に着手していました。鍛冶場が建てられ、木材事業が立ち上がり、冶金産業が始まって、ジュウ溪谷は有名になりつつありました。おそらくピエール・ルクルトは、初期の事業家が持ち帰ってきたジュウ溪谷の話聞いたのでしょう。

ジュウ溪谷ル・サンティエの誕生 - 1612 年

1559 年、起業家精神や冒険と挑戦に駆り立てられたピエール・ルクルトは、ジュネーブを離れてジュウ溪谷へ向かいました。

標高 1000m に位置し、しばしば冬の大雪で唯一のアクセス道路が数ヶ月閉ざされるジュウ溪谷は、厳しい気候のもと、岩や森が広がり、手つかずの自然が残る場所です。溪谷で生き残るためには、忍耐、粘り強さ、誠実さが欠かせない性質であり、それらの性質が何世代もかけて（ジュウ溪谷の住民の気質として知られる）コンビエ気質になりました。何世代も後に、この気質は時計製造の緻密な技巧に理想的な気質になりました。

ピエール・ルクルトは土地の権利を得て、森を切り開き、自宅と農場を作りました。過酷な環境や長く寒い冬、厳しい日々の暮らしにもかかわらず、彼はなんとか定住することができました。そして、読み書きができたおかげで、ジュウ溪谷の名士の一人になりました。彼の死後、同じくピエールと名付けられた息子が後を継ぎました。

1612 年、息子のピエールは、当時ジュウ溪谷を統治していたプロテスタントの街のベルンの承認を得て、ル・サンティエに教会を建てました。それが、ジャガー・ルクルトの本拠地となる村の誕生です。

悲劇から鍛冶屋の隆盛へ - 1684 年

ジュウ溪谷の命運は、鍛冶場、そして、鍛冶場の動力源となる木材の伐採が握っていました。1613 年の壊滅的な森林火災によって伝統的な経済活動のほとんどが崩壊しました。ジュウ溪谷の外から持



ち込まれた石炭によって鍛冶場の作業は継続できましたが、木材の伐採や販売に頼っていた人々は他の収入源を見つける必要性に迫られました。職人の小さな企業は家具、衣類、金属製工具の製造を始めました。コンピエの立ち直る力と自立心の証です。また、ジュネーブからジュウ溪谷に伝えられたモデルに着想を得て、木製時計の製造を始める人もいました。

次第に、農家は自分たちの鍛冶場を作り、鍛冶仕事安定した第二の収入源となりました。鍛冶屋は、精度にこだわり、細部に細心の注意を払って、刃やバックル、錠前、ハンドルなどの小さなアイテムを専門に作り始めました。凍てつく長い冬の間、家に閉じ込められる彼らには、スキルを磨く十分な時間がありました。そして、**1684** 年がジュウ溪谷の冶金産業のターニングポイントになります。長い間、ジュネーブの事業家たちが保有していた彼らの活動に対する法的権利が正式に終了したのです。**17** 世紀の終わりまでに、ジュウ溪谷の鍛冶屋やその他の職人たちの品質の評判が他の多くの地域まで広がりました。

ジュウ溪谷時計製造の公認 - 1749 年

1723 年に時計製造が専門職として公認され、時計に対する一般の関心が大いに高まり（タイムピースを所有したいと望むことができるのはごくわずかな裕福層だけでしたが）、それが追い風となり、ますます多くのジュウ溪谷の職人が優れた金属加工技術を強化し、時計製造の仕事を学びました。

1749 年、ジュウ溪谷の職人に商業と産業の自由がベルンから正式に与えられました。そして、ジュウ溪谷の時計職人の見習いが増え、熟練職人の評判が高まりました。特に彼らの製品がますます売れていたジュネーブで有名になりました。**18** 世紀後半には、ヨーロッパ全土で時計製造への関心が高まるとともに、オルゴールの人气が急上昇し、オルゴールの部品製造を専門とする鍛冶職人が増えました。その中には、アントワーヌ・ルクルトの父、ジャック＝ダヴィドもいました。

ピエール・ルクルトがジュウ溪谷にたどり着いてから **10** 世代目になるアントワーヌ・ルクルトは、**16** 歳のときに父親が経営する小さな家族経営の鍛冶場で冶金の技術を学び始めました。**1823** 年、ルクルト家は特別な鍛造（焼入れ）スチールのカミソリを作り始め、続いて、同じ焼入れ方法を活かして時計製造用のノミを設計しました。彼らは新しい合金を開発し、カミソリ産業の基礎を築き、また、オルゴールのピンや振動板を改良しました。

ルクルト時計製造工房の創業 - 1833 年

1830 年 **12** 月に起こったスイスの自由革命がもたらした恩恵に自由な商売の保証が含まれていました。これに勇気づけられて、ジュウ溪谷の起業家たちは工芸や製造に挑戦し始めました。



独学の時計職人であったアントワーヌ・ルクルトは、精度にこだわり続け、1830年にはスチールからピニオンを切り出す機械を発明していました。そして、かつてないほどの小さな単位でより高精度に部品を測定、加工できる、精度良く調整された切削機やプレス機の開発を続けました。

この新しい発明を礎に、1833年、アントワーヌ・ルクルトはル・サンティエにある家族経営の鍛冶場の1階を時計製造工房に改築しました。彼は数人の時計職人を集めて、非常に精度の高い時計の製造を始めました。これが今日まで続くジャガー・ルクルトによる時計製造の始まりとなりました。

ピニオン切削機が発明され、製造が開始されると、アントワーヌ・ルクルトは自分の職人技が最高品質であることを保証しようと決意しました。自身の製造した部品の卓越性を保証するため、1844年、彼は「ミリオノメーター」を発明しました。これによって、前例のない高精度で部品を測定できるようになり、部品のさらなる小型化に成功しました。

絶対的な精度で部品の計測や複製が可能になり、アントワーヌ・ルクルトは、タイムピースを一点ずつ製造するという時計製造の制約をなくし、近代時計製造産業の基礎を築きました。

あくなき精度の追求 - 1844年以降

1851年、アントワーヌ・ルクルトは、ロンドンで開催された史上初の万国博覧会において、自分の発明品を展示し、金メダルを獲得しました。特に、部品の互換性の分野で先駆的な役割を果たしたことが評価されました。彼の作品が初めて国際的に認められ、このことがスイスの時計製造産業がイギリスの時計製造業を最終的に越えることに貢献しました。

計時の精度を損なわずに部品の小型化を可能にしたルクルトの発明は、クロノグラフ、カレンダー、アラーム機構などより小型で複雑な時計の開発を可能にしました。これらのキャリバーを大手ウォッチメーカーが自社のタイムピースに使用するために強く求めるようになると、メゾンは、「ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー」として知られるようになり、ジュウ溪谷は複雑機構の発祥地として有名になりました。

1866年、アントワーヌ・ルクルトと息子のエリーは、ジュウ溪谷に、時計製造のすべての専門技術をひとつ屋根の下に集結した包括的なマニュファクチュールを設立しました。時計製造ではエタブリサージュ（一つの技術に特化した専門家が経営する小さな工房が分業体制をとるシステム）が一般的であった当時、それは、より緊密なアイデアの交換を促し、連続生産を可能にすることで、現代の時計製造業界を定義するようになった先見の明のある動きでした。

その精度の追求は現在まで続いています。主なマイルストーン：1890年、クロノメーター認定を取得し、グランドコンプリケーションを備えた初の懐中時計。1903年以降、エドモンド・ジャガーと



のコラボレーションによって制作された超薄型懐中時計。究極まで小型化された 1920 年代のキャリバー101。1946 年、クロノメーターコンクールにおいてマニファクチュール初のトゥールビヨンキャリバーが優勝。1958 年、ジオフィジック クロノメーター。1992 年、1000 時間コントロールプロトコル。2004 年、ジャイロトゥールビヨン。2007 年、デュオメトルシステム。2009 年、グランプリ・ド・クロノメトリー。2014 年、フライングトゥールビヨンおよび特許を取得した S 字型ヒゲゼンマイを搭載した、マスター・ハイブリス・メカニカ・キャリバー362。2019 年、第 5 世代のジャイロトゥールビヨン。物語は続きます…

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさを独特で控え目な洗練を組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。

高精度を生み出すグランド・メゾン

1833年の創業以来、ジャガー・ルクルトの中核を成す価値観である精度への追求は、特に重要な意味を持ちます。メゾンの創業期は、ピニオンの歯をかつてない精度で切削する工具（1830年）と、ミクロン単位での計測が可能な世界初の測定器であるミリオンメーター（1844年）といった、アントワーヌ・ルクルトの2つの重要な発明の上に築かれています。この2つの装置は、時計製造業全体に大きな影響を与えることになりました。マニファクチュールでは、ジャイロトゥールビヨンとして知られる初の多軸トゥールビヨンや、さまざまな形状のヒゲゼンマイの開発など、精度を追求する研究によって画期的な技術が次々と生み出されてきました。コンプリケーションキャリバーでは、デュオメトルのシステムの発明により、複雑機構の動作によって等時性（その「鼓動」の規則性）が損なわれることはありません。ジャガー・ルクルトにとって、精度の追求は創業以来のメゾンの中心的な信条であり、それは未来永劫続くものです。